八代集抄

後撰 雜端春上中下

九

特別
イ4
3163
104(9)

貴
14
3163
104(9)

後撰和歌集　二十卷

寄貞八宮之子四首　賀茂子之子二百九十六首

村上天皇乃天暦五年十月　坂上望樹　紀時文　源順

大中臣能宣　清原元輔等ヲ　ミことのりくだし　昭陽舎梨壺

ヲ　おのく　万葉集ヲ　読解　しめ　ヲ　はじめ　ぐにこれ

を　えらばしめ　ヲ　一条摂政　謙徳公　義人ノ将乃時ニ

ヲ乃別尚　ヲ　京極中納言流ヲ　賀茂ヲ　八宮　ヲ　おもし　世ヲ

此時の　ヲ　乃　ヲ　源順　作りく　宸筆ヲ　染させ　ヲ

本朝文粹十二云

右　叡衛藤原將當世賢士大夫也　雖剣在腰　後則秋霜三

蔵書

尽雄黄自吟又寒玉一聲遠于跪彼仙殿之締延
御此神業之綸旨天下亦知忠欵不移艶情相兼之后
昔雖移本大史振英壱於百兼紀山倡正馳高興於行
雲而示傳人間之廉勲未賜賀上之真迹見今思古
斯哉希哉

換

于時天暦五年皇太后宮藤原安子初撰之月朱草畫之期也
定家之後撰乃奥山集故者乙卿皆書朝臣
字吉今式林也枇杷左大臣家部与伊勢賜答書葉平
名如此事後代人或推而直之是非書写之誤也
集之本説也不可直改作者名字等寡ムヽ之本

為お殿皆隆正愛ゝ法出之同寺入西都ゝ古今寺
加入ゝ式山寺ゝ只法寺ゝ
恩集枇杷左大臣乃葉ゝ
ゝ乃ゝたゝやまぐさめよゝ上ゝゝみゝとゝこゝと
うゝゝゝぐゝ　ゝ　伊勢　ゝゝゝゝあゝゝゝ
ゝゝいゝゝゝゝ

きハ河代おなじ心葉平伊勢ふ、けてうそ（袋草子ニ在）
又恋部に入る葉平伊勢乃海よりづ（ゆ）ゆ（ゆ）ゆ（ゆ）
みがはるきわけるわびづんみて伊勢
おづろけ乃あまやいづ〳〵せの海の浦さき海おふ
るえるめハ 同部ニ ちひろ乃おうんハ〳〵のゆ
ありて年ゆる伊よこうわぬを人ちうん。みて世
家集乃ちるくまぐ〳〵ひをぐうわね世と雅らえざん
次ニ作者名字家ニ本賛事えぶ川のめてお
さて年ゆるの哥 古今集ふハ新撰哥し。袋
草子ニ兼盛哥をかつ（カツ）ぐ（ぎ）のうと称て。恋上ニ

ゆ（ゆ）ゆ（ゆ）ハ萩乃やけ（ケ）ふきふて。ゆ葉はんと雅を
さろうん 又恋ニ兼やゆね乃乃ゆ牧ちゆず恋て
き事乃ちさる沈ゆる おゆうこハ大和物ゆ兼盛
とけゆ。ほ哥ハ彼集ゆ山集ゆ或本ニハ
兼盛。或本ニハ兼盛ゆ。ゆ。ゆ。

よ河出かきりていまもまた古今の序乃ゝ葉
入ことおのゝ序ねのゝうれまちひと入る
袋草子云此集未定ゝ奏ゝこれを止ゆ四度計
ゝ。ゝ。ゝ。

部よ。大膳大夫。内蔵助。本三位頭貫之男。至永觀二年に
後拾遺集續古今等に撰ばる。
源順 作者部類五位部より結集せり。左馬允挙男。至天
元二年に。洞院殿の拾遺集。春宮蔵人五位。に永観に
家集一巻世六人集乃中にあり。和名類聚乃撰ばる。
又写本朝文粋朗詠集にあり。百葉集にあり
八剛直にして一一山陰時順摂津守に任ぜられ。
大中臣能宣 後撰奥に出り 讃岐大掾と云ふ。撰ばる部
類四位にあり。奉に。に。て。に。奉に 拾遺集。
にハ奉に 四位に。に。天喜。正暦三年八月九日卒七十

家集一巻世六人集乃中にあり
法尼元輔 後撰奥に出り 内掾と云ふ。撰ばる部類五
位にあり肥後守。下総守。春宮大夫。清書文。孫。法名。
拾遺 永祚二年六月卒七十一。家集世六人集の中にあり
元輔 梨壺乃五人と云ふ
八雲に梨壺乃五人とぐくとい一ごと彼古今乃
四人乃ごとず。能宣 元輔八宣代乃うへ。む二首
乃哥人なり。順又 誓古乃者也。 生涯時又八又乃
とうとうとうなりこ
長明 方丈記物云ふ後撰にハよりき哥古今よりて

それくはいくるもへさわられて。弟はてくしく。
姿をいとうどくこころをけきこゝわ
阿彌陀佛偈云ふ撰りハやとさきとゝかりくゝまさ
ぐわうきうもいかくちまとわ。あしほかの
ゝ人こゝろくやかりゝん
玄旨法印百人一首抄云ふ撰ハ實さきとゝや
後撰集乃名月呼法ゝうゝ乃撰集ゝ多集集り始
かれわといどわきくゝ去年はくゝ大成せしハ古今集
おもしろのもまとに中興といつべし。古今集のほうり
えゝうゝ撰わ新集といつわ。山事業紀貫

ゝもいとり月宴乃集ゝ云ふ法はうりハさ古今よりいろね
哥をむりのいはれもせんぜさを法てほよ撰ぶとと
て拾撰集といふを法はけさせ拾くゝ又二十集ゝ撰せ
させゝうゝ。ゝ山集ゝ撰りハ序ゝ。ゝも学者化物
法第一回集ゝり云ふ古今ゝハ貴之序いとおゝうは
ゝわくくはゝゝまわわ。拾撰集ゝりもさやゝと
かゝめゝれゝも。ゝ。ハゝとゝきはゆきゝ法ゝさ
乃上ゝまくゝ。いゝをひきゝいすをおりひゆくと
ゝをゝねくゝおゝゝくはゝわくゝゝゝまハさや
乃ゝりゝゝ人ゝる人ゝて。ゝおくゝおゝめゝ

くわうこう。愚案ずるに山陰はうを添順ずるを
野宴乃奇会の判詞商産ういそぐ味をわしまう
おどあまど。牧要くうハ乃ずぐおりめしるふ
や。又紫未宮くうこれを止と窮まるめを伝れい
序をかくしめまぐまるも乃ぐ伝るふ。をわぐ
さくうくへ
和歌集のくう古今の序は

後撰和歌集卷第一　こせんわかしふまきのいちとよむ

集りは世々の歌家卿乃物とゝ物語物ト後撰物ト後撰
正義なとゝ物ゝ定家卿乃僻案物乃説をゝ〻ゝ彼
法物乃義を用い童蒙物八中所物奥義袖中抄乃法物乃中ふ
ゝ集乃哥の義をゝ〻ゝ書不くを按釋〻ゝ伴經詩
文すゝ〻ゝ諸家乃集物所なりもうるゝ不行るをとゝ用ひく
且師説をゝ〻ゝ注解ゝ拾遺集ゝ乃物なゝ物
為家物云凡古今拾遺者哥ゝ撰集ゝ
哥乃よゝさわろきゝゝれゝろさゝの子ゝ集也ゝゝ先人ゝゝ
二条乃きさゝの子や　二条后宮　高子清和天皇后中納言長良ゝ女
ゝろきゝ物ゝゝ自天禄　花名能信云禄ゝ大ゝ乃ゝ小禄八安度ゝ〻ゝ八
美世物也ゝゝ也ゝゝ　垂花物云ゝ乃ゝ
菅原敏行　或物云敏行八古今乃軸ゝ入ゝ也ゝ

後撰和歌集卷第一

春哥上

二条乃きさゝのみゝ

ゝ雪乃子のゝろゝ白き
元日ゝ

ゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝ

陸奥国富士見子

菅原敏行朝臣　大内記

ゝ雪乃子のゝろゝろゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

春立日よゝる

凡河内躬恒　古今者

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ雪乃子のゝろゝ
伴業物ゝゝ雪乃
のゝろ花ゝゝ
雪乃ゝゝ義を
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小松ひきふんのくまのうり出るをつく

[illegible]　よみひとしらず

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白氏文集三池有波
文永盡開とある心
をえ一のあの事を
やはらるるハすなるち
波のみく

わらはやは春ちきぬを
枝ことりもなく
咲ぬハ春を風の若
るるやとし風ら若
咲ぬられいくるるや

寄童家打き先遣和
月朝清恩と元詩のこ
かすら野よりのるわるを
彼方の女を春日野の
菜よりいとり清し

よみ人しらず

ちくるやは春ちきぬを花ちきてりり
えるることれる花ちきてりり
ちをすりわるやはくこるはきく
まるるるよやもりて行るる人の家
乃むすめを学ひひく行れるやん
枝ちきりやむくるるる

いかりたかせ[illegible]人
いつるま一人まひ
[illegible]
[illegible]人と[illegible]
[illegible]
あをとわ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひつうる（作）よみひらす
いかりたかせ[illegible]
[illegible]
雪[illegible]
[illegible]
（カヒ井ノ）閑院左大臣　冬嗣公
おを[illegible]
[illegible]
こ[illegible]
お裁[illegible]
く咲[illegible]
（中納言）菊亭黒淵殿　（九条尚経基）
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

延喜御時寄[illegible]
[illegible]

春[illegible]
[illegible]
月[illegible]
おう[illegible]
（家集ハつ[illegible]）
[illegible]
（イかゝ入　ガ本の注元）
[illegible]
（嘆[illegible]）
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風ちりてはれり我
梅の花と一花ちりく
白ひとえん梅をと
わらやの梅のえだをと
心ゆし白梅を折
梅のえをとりてん
梅よ近つく白ひとつ
て雅とわらうの者う
と雪のうめりぬせんと
よりもうんと
うめの花見れいられぬ
手ぬ家主者よ折れば
こちらもわらの小兵神よ
白ひ者とうつせ家と
りせんとく白ひ者

梅のえをとりてあるとうんわきこそる
こちらむとうの乃うみこうしわ

せい法師 遍照子

うめの乃花おなじ人こられぬわら神り
白ひうう川せいこほとりせん
ちこうこうはきくわうようつて
よみ人しらず

こちらもてわるいわやる梅乃りる
うとやくくふうよ人乃ちき
うををくくこけしるる雪のこう

今八後中きはこうこう家
こちらもとそわるうん
はやかいあちきりと
我はをいあよ春ち
ん更ちつれきそれ
ちいはせんりもちきり
梅りとめそれ示古
人のこりとうとむそれお
ちきりとく 素性法師
ひとこちらうきこうきれ
きゆる宮とうてうき
人をせよせいんも
恨通すいとも
梅乃こりを咲こる
白ひよちやこい人の

どうわをこうよちらこうせとひけ
ふうみの幸もつまるうわられて
ひとこごろうさこうきられすこそい
こうりすきゆるゆきかれちん
雅志こうす
梅乃こるうを上きかるこるこせよ
こちらとうめをひとやこうめん
まるる乃ちこ野ひりきこちん
梅乃をかきちとりみりり
かきこ雪ハちりて清水よ
五葉のこうこ

うつりかとやうちんと
まこもれすかのしまもの
野梅の梅のはなりかく
まんとのさくもも
ゆきそへ雪ふりて
きさすふかさすすめ
雪はれをめきかるさ
すすきの常春と
谷さもみはるる華嶺
鶯すすめね常春
常乃春さはるこゑは
良氏文集常鶯詩
来花はたの心我と
一度花ふ春はるる
こゝく鶯はさるれ来

わかいとのさとの
谷さしみすすきすすきはうひとれ
あくこゑわかみ人乃すさめぬ
常花あきはるこゑりさうわれく
花乃ゑりうわきそきうるる
むくふもまこさるかくにうひとの
あくひとゑをゑとはりん
きみるめ山田乃はりうつを
わまつ神をいまもはそす
あひきわくはるる人乃はり

しるるとの心
むくふもまこさるかくにうひとの
常一樹はるまるきをる
はるる常もすきこゑ
あくにはるるゑと
きみるめ山田の原は
ちく神中物語花すす
わたくこゑるの梅
童蒙物語ちく竹一物の
みるこゑ心舟万葉六句
雪はのるとしるわと
はとうわ心
うめの花はまはさるは
消息せねとうるれ
春のうはいふる梅や

まれわるるる梅乃木はるるこゑ
さきあんときはるすせうこせん
こひるるをとちくはるれを
朱雀院の兵乃ゑと
敦固寛平第五
うるる乃花常はさるわるはるん
うのめひとれとはるもせぬ
あ
紀長谷雄詩
延喜十年中納言
浮世志杉氣子
春風うはいふる梅やるはん
わるるる桜るはるをかるす
まる乃日こゑの春はくあるとく

春の日のうゝらゝかなるに
梅の匂ひゆきかよ
ひん我こそ殺ハ咲
[illegible]
[illegible]
梅のそこちこそ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

よみ人しらず

梅の花ちるてふ事のまがりまを
[illegible]
[illegible]
[illegible]

らすと色香をうしなを
愛する心但源氏の海に
はけるとあるのをふとれ
てと出りをこの歌ハ
香と色ふかくそなとの
心をうしなはぬ
ゆる雪のうちけうん
ゆる雪ハ且てきしよれ
ば梅よりおくれてわ
ゝけさ雪清こんう
ちとはいとわかさんと
春ことふるはきさきる
花屋進上まき兼盛
うれハ宴物とする清原
するあしを花を屋清原

くるを　貫之

ゆる雪ハうめもけうんうめの花
ちるとうもとりまとしずおりくかさん

兼盛朝臣乃園乃おるる梅と花て佐
くるをうせ世中のちを花を出る
をかとうを枝をおりくうをの中
よりこれをうとひ出られい
春ことふるはきさきる
花屋進上まき兼盛
うれハ宴物とする清原
するあしを花を屋清原

兼盛建長一年宵参議中将参元
梅て宴桐よりてはるる辛きん

後撰和歌集巻第二

春哥中

杖轉朝臣大納言物案便
天慶元年七月廿五日
駿河守村福子作者
部類云大納言以上
皆不出官位等名尸
計書之集拾遺跪

うゝとさきそめん
老後は梅ゝ必ず命
つゝ花ゝ花ゝ
ちきりは今年ゝ
咲て散ても花れ又
一年ゝ
りやうりとし
竹ちゝ春家ハい

梅ゝ

うゝとさきそめんとも
ちきるはれいよりひさうゝ
わやゝ行ゝ行ゝ
ゝ

菅原伊衡朝臣　左中将敦実参議

杖轉朝臣

竹ちゝ春家ハいせうゝひとの

俳業物云家業ハ花
山すそ家とあるいよ吟
ゆ多いせれと繁る
羽れど古き舞ハ兵
そそよめれハ多の多
いろ乃四方ハ花やまへ乃さそ〳〵花
ハ消し乃上ハ古き
事よりハ分れそ
梅乃古き守も
う〳〵わそそ
花山そ遍照乃
そ山る雨し乃俗ハ
法師と俗人と
山るハいそ〳〵ハそん
山るハとのめハとのめと

俗正遍照　京岑安世子
俗名宗貞京兵將

あく〳〵ま乃ま乃ま乃ま乃さいせれと
やもの布多丸山乃ま乃
素性法師
いろ乃四方ハ花やまへ乃さそ〳〵花
うへうんとときを乃ま乃人乃ま乃
花山乃ま乃俗さけ乃ま乃
おそ乃ま乃
山乃ハいそ〳〵ハそん乃ま乃
多乃ハ乃さそ〳〵おそ乃ま乃ん
おそ乃ま乃さそ〳〵を花乃て

俳業物云家梅橘
乃名ハ花すて
山とハ多梅と云説
多乃〳〵ま乃ま乃ま乃
ま乃花乃ま乃ひ乃ま乃
梅ハ乃ま乃ひ乃ま乃
ら乃梅乃ま乃と乃花乃
と乃ひ乃ま乃ま乃ま乃人
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
花人乃ま乃ま乃ま乃ハ
我ハ乃花人乃ま乃ま乃
せす乃多乃ま乃に乃ま乃
山乃き乃花乃ま乃ハと
吹乃せを乃ま乃乃山乃
那良志山大和風を

ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃花乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃

法人ま乃ま乃

いせ

ま乃ま乃花乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃
ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃ま乃

前載り行乃ちの梅乃さき
るをみて　坂上是則

さくらさくとみるまでこれ行乃
春乃かすみにまがうらむれ

さくらさくみ人さとと
一春乃かすみにまがうらむれ

梅乃花
春乃かすみにまがうらむれ
白雪乃山里に梅乃うるれ
を覚らくそもとう
つてよめるやなぎ
あるものの
春れ乃風乃さき乃ものの
あるものの
貞観御時（清和天皇）　ゆみ乃わさはらふまち
春乃　河原左大臣（源融）
ゆきとれわさ　融公集
つのさとり　ひとり

久さくさくさくらさくふ風乃こぬまより
香こめりさくらの香ろ
香ろもよ花をさそひ
ゆく風はなたに梅の
ゆくふち数びて梅
も出れてけんと
さくらるぬりを三ぬ
心の明りもそもの
濃波倉の山のはや
九迄の月はさくら
あをやきの糸乃糸
柳乃糸乃糸
柳乃糸乃糸
春乃ゆくを　伊勢

むこめりさくふ風乃こぬまより
家乃ちとをきぬまるる時お載
乃梅乃花乃ゆひつみ侍る
菅原左大臣（延喜廿二年四月左大臣）
さくらるぬりを三ぬるのあるん
みきん風りこと侍ていせよ
春乃ゆを　伊勢
あをやきの糸乃糸乃糸
いつまでやはうくひとのきる
花の数をくく九河内躬恒

あひはてうつろふを
花にあひもさそう
つゝみを残いわそ流
するよ花に残るくお
ゆるもの知りきと
乃ゝとも

かつるかの宗盛ゆふ
雲隠て居もるま
とゝまる色すゝ霞を
ゆゝきく居のゆく
みちをとゝをせとゝり
本の月はとゝと兵
このゆゝ風とうゝち
ちきさうす残ゝるみう
延喜のれさせのひて

あひはてうつろふを花にあひもさそう
つゝみを残いわそ流するよ花に残るくお
ゆゝ居をゆてゝ人きゝと
かつるかの宗盛ゆふ雲隠て居もるま
とゝまる色すゝ霞を
朱雀院乃樣乃なゝ
延光卿の
ゆゝきく居のゆく
みちをとゝをせとゝり
本の月はとゝと兵
ちきさうす残ゝるみう

大将御息所 源能子定基卿
三条左大臣女

のちのとゝち見し朱雀
院に累代乃怪院也延喜
もかりあさせのひて
院よりあさハ出来
もを移を人作りて
見すゝ山きを残念ゆた
味さうすゝも生きと
春ゝれゝ本かれかりき
ゝ本とかりて春ゝれ
樂乃まゝおかりきゝ
義能面目さ消ゝ

ゝちわゝる霞のゝうハ
山ハゝ元移ゝ霞の立
わゝちゝるゝ
おゝうゝをかりゝかりの

ひとゝはゝくゝうやゝきうんとおゝひ
ゝ生ゝゝゝす　後人きゝと
春ゝれゝ本かれおかりきゆゝて兵
れかゝ消のあゝも花作ゝゝく
ゝちわゝる霞ゝのゝハやゝきゝゝ
見ゆゝるさゝとゝ乃いゝもひゝを
おかゝうふたゝりゝの神もゝ
ゝゝ花をゝせゝりゝのゝ
やゝひはゝぬゝち生ゝ女にゝゝる
ゝかきゝゝ生ゝきゝゝわひゝれ

[illegible]

春の夜はおもしろかりけるものかな

てしこ　殺きかりをやすんと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

極てこゝる人の心はやさ
しさもたゝれたるの
心制覇し山南是れ也
とゝろ〻とゝれ花のさゝわ
けしゝ向れ花そ極
き國をたれ花は是也
世をうんゝ〻へやせんと
思るみゝもとひもとぬし
第せんもうるれてき
少てとうむやもの
わゝ〻もゝ無心乃を
國を離りよひゝ〻
青の山れ青ふのゝ山れ
し青ふ山て花実心
是乃他のむもし

小式部内侍

おもひ
こもゝ
きしもはれ花のさゝわよつゝたれハ
ぬ心りゝ宮とやたるまし
み

わゝ
花さゝわゆゝ
春乃他のむもまるふまるもの
ありのゝとあきゝたもするゝ

菊原道真

三条右大臣子
寛和三年
中納言

宮道高風

右京亮
弘天禄元年

僻案抄云名名の是の
いとまのきとりは
童蒙抄云是乃いとる
きとはあるの水もあ
るは安れと是とは侍
あくかし 愚案序
尋ま花の多
やまの花のつかふ
童蒙抄云花のゝふ
とハ者とやゝい事と
云心也 麓の霞れと
とゝ〻ゝ心のもにと
ゝ心をさうハ心
春のゝまもの
れわゝゝ惜の字

寛平御時花乃を霞りこめて
せとゝいををよみてゝそゝんれと
わやまきれハ 菊原真風

やまの風乃花れ
る乃ゝ

平義句川ノ

春面乃ゝ
牡ゝ

ゝ花をこゝ
ゝ

麓子 本院左大臣時平女

第極乃ゝ

おもてうきぬの袴乃
くきをとりくはせ
しきぶ

わらやとのさくらの花
きてもかうんに美て
わすれといふ美くて
とうてし我まてすす
る物をうすくも
花の花乃形世ゆ
美てからせよと

とをつくる花のさわ
三て年ゆうう花を
のくすとて花に俗
る物をれハとをと

わらやとの花よを 春道つぎ

乃さうわとをきくもかうん
わとれ仕よをる人乃家よ花をこ
ゆ
兼盛 ミツもり

とく

乃さくらの花のくわりこくく
ゆ
ゆ
ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いさゝれあるまちるまさうの花
紙を巻ようゝゝ久
しれとてゆはさ
れと時岸おれと
ちりてもとも

ゆきかけさぶれを
上ろハ川しもとまん
るハつゝやゆゆねハ
かめさゝれとまう
ひる学ふ行ねハ
学小学りてあれとも
ちりぬき花の名ハ
散うまぬ花とふ
花ハつまもうく
うゝゝ明きもし

ひさゝれあるまちるまさうの花
かめりさせれとうろひるゝ
ゆ　　中務のゝ

ゆきかけさぶれを上ろハ川しもとまんるハつゝやゆゆねハかめさゝれとまうひる学ふ行ねハ学小学りてあれとも
ちりぬき花の名ハ散うまぬ花とふ花ハつまもうく
うゝゝ明きもし

胡蝶の花乃家のとろろ
くるよ桜のいろうちりれいひ

かきこうよちりてるむを
ねこめ原氏ふ厳者よ
しいりり桜ちりてとちり
ちりてるのゝちりすを
をちりハ桜ちりて吹こ
ゆきこ原ちりてる
ゆのゝきこれなを
春乃月のちりきを
紙に三ちりきを人の
ゆる秋三ゝんとも
ようまてもを花ちる
人よりるされ人乃
所ちを春をふ
人よあうゝて今餘
雨ふ原ちりて山花

ちりてる　伊勢

かきこうよちりてるを花をるるちり
ねこめり風れあきしこさうん
ゆのゝきこれなを　よつゝ行る　よみひとうと
春乃月のちりきおもひいわれと
人のうろよ秋やゝ行らん
さいきうと
ようまてもを花ちるとよねをう吹
わるを多ううきを乃はうさに
ちりゆき

[illegible]

風をいとはしくうつろふ花のちりぬるは
心つくしうつろふうき
ゆきまさる雨よりすゆるる女はれく
かわるゝ袖をいかに慰よるすゝれ
乃花をはすくひつゝ
よみ人しらず
我やふすれのむ
きやるハまて宿
色は尋ハまのよ
葉つゝとう我ら
野をとつゝ一夜
山ゝ
さいとと
雪をいかすすをわひくちる花を

[illegible]

雪をやよそ乃ひとそ見ゝん
ゝ色乃さそふ物とハ
ちりわる花をとゝ
清原ふかやぶ 深草長文 備後
そをもち房 閑子
ちゝ乃さそふ花
ハねきゝ知ゝ
うちまつゝ
ハやらて
ゝ
ゝ
ゝ

こわらきみ　惟高親王女

わりやれあけきはまもしたるに
あかつきのなるをたてくもとん
又乃みこころさせるやうもなくて
常よりはいとゝ人をもてなんとする
春乃池のかりかねて

よみ人しらず

まつ乃見れけふは池乃かりかねハ
柳乃まゆゝ中乃ハてくる
春乃著よりはれたれ花のかゝる雨に

ちくあるちくせをやハつくてね
花乃ときハしあるとてんるくく
延喜御時殿上のかのこともれ中よ
めあけくまてあくかゝ乃
ゆくるつのそよれの内新植

かさせとも先しかれねこのそるろ
花のなとてもとせつてまる

敦忠

よみひとも

ひとくせよかさるまもしのハころ
みてひ花をんとものよめ
ちくくあるちくせをやハつくてね
花乃ときハしあるとてんるくく
延喜御時殿上のかのこともれ中よ
めあけくまてあくかゝ乃
ゆくるつのそよれの内新植

かさせとも先しかれねこのそるろ
花のなとてもとせつてまる

敦忠

よみひとも

ひとくせよかさるまもしのハころ
みてひ花をんとものよめ

花のさかりにまうであひて
くてなのやどりをせば
ゆくとも古今堂乃
笠をかりて梅花わ
てくさんをうくらを
ひとせよりかさうまち
一寺小童わてみまし
ひのこうと

まちくれいさてとことをぬれきぬ
ぬれきぬいあき名へと立
るを云ひかりを紅ち
ちりて嶋も美
心をよめり まこれも
花嶋とハ あき名をと
ひかりて 菊と

花乃ちくれれ
うちちるをちるはの
り

春くく

まちくれいさてとことをぬれきぬ
きさるいかりの花をうなりわる
去花ひていてちるを見ひ
てみはりつまるこの五てるも
ちわれいおるなりきの
乃五てこひうまてきちけ
きハひはりつちるる

春日さす花のうちにけて
まこ子ーなるく我もうのきん
ちる助ちの

春をあひくいちるまてを
わりよのりさくにたんてり

読人しらず

春日さす花のうちにけて
まこ子ーなるく我もうのきん
ちる助ちの

春をあひくいちるまてを
わりよのりさくにたんてり

[illegible]

元長卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春の月花のそらとよりあれこそ
心は明し

海乃つ　六条宮乃
長名伊勢物語に海頭
と出海のかちなり
まつのきくらゐ
春乃名は青き松
又一行沢は松
う　泉出乃名

典侍同香朔に奏
貞観寛平比人
典侍　テンシ　ナイシノスケ
あるべし

春の月花のそらとよりあれこそ

菅原敏行

春の月花のそらとよりあれこそ
あるをこそうぬれめ香をやうつす
いつこ乃名はまつ乃名は海乃
はるかく　よみ人しらず

八ツ橋に立てさんやを
て藤も立てぬるん
さやの乃さまし藤を
れなもし藤もし
いかと思ふとの心
をとめてよめる歌
きみをとしらねく
わりて心藤をまて
乃りと藤くわりて
をるを藤をいと
まつ〳〵ものと
神さひて古き木
乃ものやうに白ふ藤乃花
法師はあらん乃心をもつ人やま
とよまりてをとくに侍て

つけり春乃上すふ
し春の神さひて
月ところ〳〵
ひとりいかうの
と春乃花
ケ乃のよりよの山乃さくら
只中とは中まりて
えをり乃春をかく
りもし
山さくら乃きめる時
心い時も花をも
とこし
きて〳〵中と乃て
うろうんやいろ
りりゆと月も

あひ乃りて侍る人乃をとり月
ところ〳〵花を嘆みるりやと
ひとり侍れを
ケ乃のよりよの山乃さくら
きて〳〵中と乃ケ乃ひ侍
寺子院乃寺合のこと
山さくら乃きめる時ハ常とりの
ねの乃きて中と立まるりりを
山橋をて けりゆき
きて〳〵中と乃て侍
うろうんやいろ
りりゆと月も

[illegible]

さいきょ　よみ人しらず

わりやのけもるのむ苔のさる
かけうつろふきしのやまぶき

人乃心のみなくさわまれい
山吹乃ちるをしるとこれを
うつろふをみんとそやまぶき
のひとへあきくかつのむしら

[illegible]

さいきょう　よみ人しらず

やまひとりのみ花の盛をみる
うつろふをしるやまぶき

偏照遍照

おもはれいふぎにけるとそ
みしかけうつろふとそ
さいきょ　よみひとしらず

みちのくの名さん山きは松の秋
ちりをはらくさるる苔の
やまひとりのみ十月のつゆ三条
定方卿

大臣兼輔卿の家よりわ

わすれよとわれる花ゆへ
いとゝ年をつもりて
ゆめ
ゆめ
ゆめ

さやうよ一ぢのこそ
ゆんとのふやうの心
ゆきこそ春もうちと
けしえんせしと人
乃ぬしのやうよこそ
して秋ちかたとわ
ちりせこそ世
ゆきわけ乃ゆくえハ
思ひ

うちひとの糸とる乃
俗て糸よりて柳を
ろ糸よりて賞
とこうふ羽をて糸
ろうとよりて
糸の糸よりる物を

貫之

ゆきわけ寺ゆくえハあきられと
ちるこ乃ハ花乃いろ見てくる

思ちて　よみ人し

ひと乃糸よりるふ玉やなき
あきるみてうまち乃心ハ

桜の花ちるきて

こはね

つ乃ちちてわん桜花

巽三　十一

ちるとけうの今いろを見せけく
つ乃ちちてさうち乃けれ仲ぞ
ちのうていろのうち
ゆく春果ちと

源仲宣朝臣

源仲宣　大納言貞信男
光孝天皇孫　左兵衛
延喜八年　左少将

ちるこのうきも見て
ちるとふうきこそも
三れく衣とりを
桜よみしとを
うてやとつ乃ちを
世間ちれハ素
乃ひも三る毋の花

敦実親王　宇多皇子
つ乃ちてちれ花乃ちるとき

ちて

源仲宣朝臣

ちるこ乃うきもわれく衣て
ことをさくりやとつるる
桜のちるとて　よみ人し
ちるこいろよきる衣乃ゆけを
する春日も何くとて

隋を

源生ようふ月ある年つくさ
や乃こ乃中みてうく春
友とて中上る折柴

[illegible]

[illegible]

[illegible]